

令和 7 年度 東京都公立大学法人中期計画進捗状況に対する所見

東京都公立大学法人の業務実績について、地方独立行政法人法に基づき実施する評価に資するため、令和 7 年度末時点における中期計画の進捗状況を同法人が自ら確認した結果について、以下のとおり所見を取りまとめる。

■ 主な所見

東京都公立大学法人は、第四期中期計画の 3 年目である令和 7 年度において、将来の東京の成長を支える人材の育成など幅広い事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

【東京都立大学】

学長裁量枠を活用し分野を限定せず研究に専念できる助教を採用する「知のみやこプロジェクト」により、若手研究者 3 名を採用するなど大学の研究力向上に寄与する優秀な若手研究者の確保・育成に向けた取組が進められている。

【東京都立産業技術大学院大学】

入学定員の増員に対応して、SNS 広告の活用や学長・教員による渉外活動等の戦略的な広報活動を展開し、出願者数及び入学者数の確保につなげるとともに、高い志願倍率を維持するなど、教育の質の確保と安定的な学生確保に取り組んでいる。

【東京都立産業技術高等専門学校】

ICT・IoT 関連講座や品川区と連携した「ものづくりテクノスタジオ 2025」など、高専の特色を生かした小中学生向けものづくりや情報技術を体験する機会を提供し、目標を上回る参加者数を獲得しており、科学技術への興味・関心の醸成を図るとともに、高専の認知度向上や地域との交流促進につながる取組を進めている。

【法人運営全般】

働き方改革推進計画に基づき、文書管理システムの運用や生成 AI の活用による業務効率化や、部分休業制度や介護休業制度の拡充など休暇制度の見直しを進めるとともに、職員の声を踏まえたワークスペースの整備や「夏のノー通勤チャレンジデー」の実施など、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

■ 総括

東京都公立大学法人（以下「法人」という。）は第四期中期計画の折り返し点となる令和7年度において、将来の東京の成長を支える人材の育成など幅広い事業を展開し、その多くで評価指標の達成に向けて着実に取組を進めており、順調な中期計画の進捗状況にある。

法人の設置する東京都立大学（以下「都立大」という。）、東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）及び東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）は、これまでの取組の成果を基に施策のブラッシュアップを図り、環境の急速な変化に機敏に対応しながら、既存の計画のみならず新たな視点を持って積極的な挑戦を推進している。

中期計画期間後半においても、加速する社会の変容を飛躍のチャンスと捉え、国際社会や産業界等で活躍できる豊かな人間性・創造性を兼ね備えた人材の輩出や新たな知の創造に向けた取組を着実に推進し、更なる成果につなげていくことを期待する。